

CONTENTS

● IEC(International Electrotechnical Commission (国際電気標準会議) 報告	2~3
● Synthesizer Festa 2010	4
● 「Fluzo」の運用状況と今後の展開について	5
● 著作権・ソフト委員会報告	6
● 早稲田大学基幹理工学部講義、製品安全・環境 委員会報告	7
● AMEI会員名簿とお知らせ	8

IEC シアトル会議報告

2010年10月9日から15日まで、米国シアトルにてIEC 74th GENERAL MEETING in Seattleが開催され、ワールドワイドでの音楽電子業界の健全な発展ならびにエンドユーザーの利便性向上をめざし、MIDI規格の国際標準化を進めるため、AMEIからMIDI規格委員会：飛河委員長及び著作権・ソフト委員会：戸叶委員長が、MMAからはTom White会長が出席し、電気・電子技術分野における国際標準化の現状を視察すると共に、MIDI規格の国際標準化の為のミーティングに参加いたしました。

国際標準化の検討には、公式ミーティングの他、IECの日本のメンバーと共に話し合いは深夜にまで及び、MIDI規格を国際標準として認定を受ける為の工程や、そのメリット・デメリットについて多くの情報を得る事ができました。



IECシアトル会議報告

著作権・ソフト委員会 委員長 戸叶 司武郎

10月に米国ワシントン州シアトル市で開催されたIEC総会に飛河MIDI規格委員長と出席してきましたので、会議の様態等についてご報告いたします。

◆What is IEC?

IECの正式名称は、International Electrotechnical Commissionです。日本語にすると「国際電気標準会議」となります。IECはISO（国際標準化機構）、ITU（国際電気通信連合）と並ぶ世界3大標準化機関のひとつであり1906年に設立され、中央事務局はスイスのジュネーブに置かれています。電気・電子技術分野の国際標準・規格を作成し、その普及を図ることを目的とした非政府機構です。加盟国は約70ヵ国、会員として1ヵ国につき1機関のみが国内委員会（National Committee）として認められ、日本からはJISC（日本工業標準調査会）が加盟し、主要国の一つとなっています。IECの主な活動は、電気・電子技術および関連技術分野の発展、世界貿易の推進に寄与するために、国際電気標準規格（IEC規格）を制定し、その標準・規格に適合した製品の品質と安全性を保証する適合性評価制度を提供することです。

IEC規格等の発行件数は、2007年末時点で5,794件あり、世の中のありとあらゆる電化製品の国際標準化に関わっています。規格作成には専門委員会、分科委員会、作業グループ等が活動しています。最近の例ではブルーレイディスクの国際標準化などでご存知のかたも多いのではないのでしょうか？ちょっと意外だったのは、IECとISOは民間企業だということです（ITUは国際団体）。私企業でありながら世界の国際標準を決める重要な国際機関というのが不思議な感じがですね。

◆IEC出席の目的

IEC総会に出席している各国の国際標準規格専門家にMIDI関連製品の普及状況をアピールし、MIDI規格を国際標準規格に推進する為の足がかりを獲得することです。MIDI規格の国際標準化の必要性について、国内の各方面からアドバイスや情報を戴いたことがIEC参加に繋がりました。特に経済産業省からは、海外新興市場において民間スタンダード（デファクト）に対する動きとして、新たな自国独自スタンダードの制定、並びに国際化組織へのデジュリ化提案によって自国の独自規格を国際標準に昇格させ、自国市場でマーケットを自国内企業優位に持ち込む手法が目立つようになり、その対策を講じた方が良いとの紹介を受けました。MIDI以外の規格が乱立すると、最終的にユーザーに迷惑がかかることと、楽器などのハードメーカーが新興国市場で大きな混乱を受ける可能性があります。これらの情報を踏まえて岡部会長の総合的な判断の下、AMEI会員企業の将来リスク防衛策として国際標準化の検討を進めることが決定されました。

※御参考：国際標準化の必要性

標準規格の世界において、国際標準には大きく4段階のレベルがあります。まず第1にデファクト標準ですが、単独又は特定の企業連合が独自に策定する規格で、市場競争の結果により、製品そのものが標準となったものを指します。MS社やアップル社など米国企業はこの形態を採る傾向があります。

第2がコンソーシアム標準で、特定方式を推す企業連合が同一分野の複数組織間による競争（技術、仕様の突合せ）により規格を策定します。このため競争と協力の複雑な利害関係の中で策定されることになりますが、AV機器分野ではこのコンソーシアム標準が国際標準となるケースも多いようです。

第3がフォーラム標準で、特定技術分野の標準化のために任意で組織化され、企業間の連携の下、開放性・透明性のあるプロセスを経て作成される標準です。規格策定に参加したい企業だけが参加するので、策定の時間が短いのが特徴です。MIDI規格は約25年間に亘り、AMEIとMMAが会員企業とともに開放・透明性を維持しつつワールドワイドに普及を進めて来ましたので、この第3段階にあると言えるでしょう。

第4がデジュリ（英語表現。フランス語発音では「デジュール」）標準で、ISO、IEC、JTC 1、ITUなど公的標準化組織によって策定されるものであり、開放性・透明性が要求されますが、1国1票制のため欧州勢が力を持っています。反対国も審議に加わり、コンセンサスペース（反対国の意見も聞き、最終的に多数決で採決）のため、規格作成に時間がかかるのが課題ですが、1995年からのWTO/TBT協定により、その効力は今後絶大的なものとなります。標準化にご興味のあるかたは、「シンガポール 洗濯機 国際標準化」をキーワードに検索をしてみてください。日本の家電メーカーが新興国のデジュリ化戦略に苦戦した事例がヒットします。



シアトル国際会議場



会議風景



Tom会長とAMEI・IECメンバーミーティング



IEC案内板



シアトル全景

◆IECの雰囲気

今回出席した会議の名称は、「IEC 74th GENERAL MEETING in Seattle」です。世界各国から約1,500人の国際規格専門家が集まり、7日間に亘り公式＆非公式の会議が開催されました。全体会議はシアトル市中心部にある国際会議場（The Washington State Convention Center）で開催されますが、テーマ別のTC（Technical committee）グループとその傘下部会のミーティングは、隣のシェラトンホテルとハイアットホテルの会議室を朝から晩まで多数使用して、延べ数百件が開かれました。ホテルの会議室は50名から100名程度の広さで、ノートPC用の電源はすべての机に用意され、無線LANも常時使えます。会議の休憩時間にはロビーで飲み物とフルーツが無料で提供され、参加者同士が頻繁に意見交換をしています。参加国は多岐に渡っていましたが、日・米・欧・韓からの出席が多く会議言語は英語に統一されていました。最近3年間で中国からの参加者が大量に増えたとのことで、すべてのTCに出席しているようです。

シアトル市は人口約55万人、周辺都市にはボーイングやマイクロソフト本社があり、広域では300万人を超える中堅都市で、州立ワシントン大学を中心として知的財産の研究が盛んな場所でもあります。北緯47度と北海道より北に位置しますが、暖流の影響で過ごしやすく、豊かな自然と洗練されたシティライフの見事な調和を誇り、『全米でNo1のパケーションスポット』『世界10大観光都市の一つ』『全米で最も住みやすい都市』『リサイクリングの率全米No1』『アメリカで最も国際ビジネスに適した都市』などこれまでもあらゆる分野におけるタイトルを獲得した都市であり、アメリカの他の

都市から羨望的となっています。しかしIEC参加者は国際会議場とホテル会議室を往復し、朝と夜はホテルの自室に他国の協議相手を招いて事前打ち合わせ、と一度も観光することなく一週間会議漬けになっていました。国際規格を勝ち取る為の激しさと厳しさを実感しました。なぜシアトルなのか最初は疑問でしたが、同行している奥さんやお子さんが充分に楽しんでいるようです。

◆今回の成果

我々はTC100：AV & Multimedia Systems and Equipmentというグループの会議に参加しました。電子楽器間の通信規格が原点であるMIDIはTC100カテゴリーに帰属します。TC100の幹事会であるAGS（Advisory Group of Strategy：戦略企画グループ）ミーティングの中で15分のプレゼン時間をもらい、MMA会長であるTom White氏が23枚の画面を使ってMIDIに関わる様々な産業の広がりに関係する数多くの企業、そしてMMAとAMEIの役割を的確に説明しました。参加した約50人の幹事との質疑応答を経て、MIDI規格の国際標準化を検討するリエゾン（IECとMMA/AMEIとで共同研究をする為のプロジェクト）の設置がAGSとして提案され、後日TC100案件として設置が承認されました。ここまではかなりハードかつタイトなスケジュールでしたが、JEITA（社団法人 電子情報技術産業協会：Japan Electronics and Information Technology Industries Association）のe-book標準化グループ植村委員長、ならびにIEC関係者（ソニー向井氏&江崎氏、東芝平川氏、大工大小町氏、パイオニア由雄氏、IEC事務局Jean Baronas氏）の全面的な協力を戴き、重要な成果を得ることができました。この場を借りて関係各位には厚く御礼申し上げます。

◆今後の展開

AMEIにおいてはMIDI規格委員会で、国際標準化検討推進の承認とその為のWGを立ち上げます。推進にあたっては、経済産業省/情報電子標準化推進室（産業技術環境局基準認証ユニット基準認証政策課）、並びにJEITA/e-book標準化（TA-10）グループと密接な連携をとっていきます。

またMMAにおいては、Tom White会長にIECでのプレゼン担当を依頼し標準化について十分に理解して戴きましたが、次ステップとしてMMA全体として国際デジュリ化推進の承認をとった上で、IECと設置するリエゾンの窓口を担当してもらいます。

次回の国際会議は2011年4月にマドリッド、同10月にメルボルンが予定されています。標準化への道は歩き始めたばかりで、これから様々な課題を検討し乗り越えていかなければなりません。AMEI会員各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。



TC100紹介図



MMA：TomWhite会長プレゼン画面

Synthesizer Festa 2010

Synthesizer Festa 2010 実施報告

音楽を楽しみ、創る ミュージックメディアの祭典 Synthesizer Festa 2010 は、日本シンセサイザー・プログラマー協会の主催、音楽電子事業協会の共催により、10月9日、10日に西新宿の芸能花伝舎で行われました。花伝舎は小学校跡を利用した芸団協の研修施設です。体育館を利用した展示会場、教室で行われたセミナー、一般参加を募った展示販売のクリエイターズ横町、スタジオのコンサート、校庭では憩のテラスに模擬店と、学園祭さながらの会場は、大勢（両日で1200名）の来場者で賑わいました。今回は芸団協、新宿区に後援を頂き、芸団協ニュースにて各芸能団体へ、新宿区報では区民に、区立中学生にも紹介頂いています。電子楽器と共に音楽に親しみ学ぶ二日間は、若い学生層に加え、芸能実演家のベテランから地域の方々までお楽しみ頂けたようです。展示会場の出展は13社16ブランド。セミナーはMIDI検定、出展社より26項目。コンサート、イベント共に大盛況のうちに無事に終了しました。音楽普及と共に地域一般に貢献する公益的な活動の役割も果たせたように思います。

MIDI検定委員会 事業委員会 大浜 和史



MIDI検定セミナー



ボーカロイドセミナー



KEYBOARD SUMMIT II 「鍵盤楽器はこう弾け！」



生録セミナー「良い音はこう録れ！」

AMEIのイベント・セミナーとしましては、MIDI検定試験実施直前講座として、ミュージックメディア入門講座・MIDI検定3級紹介講座・MIDI検定2級紹介講座・MIDI検定2級実技紹介講座・MIDI検定1級紹介講座を実施、また昨年の楽器フェアに引き続き、ボーカロイドの仕組みと開発・ボーカロイドと著作権講座や生録セミナー「良い音はこう録れ！」を実施、KEYBOARD SUMMIT II「鍵盤楽器はこう弾け！」では、向谷実氏、篠田元一氏、小川文明氏、福田裕彦氏、大浜和史氏のセッション等、雨まじりの天候ではありましたが、大盛況に終わることができました。

本当にありがとうございました。

一般社団法人著作権情報集中処理機構(CDC)報告

「Fluzo」の運用状況と今後の展開について

一般社団法人 著作権情報集中処理機構 横山 真司

一般社団法人著作権情報集中処理機構（CDC）は、音楽配信分野の著作権の円滑な処理を推進するため、基幹業務システム「Fluzo（フルゾ）」を開発し、音楽配信における著作権処理の共通インフラとして、音楽配信事業者様（CP）及び著作権管理事業者様向けにサービスを提供しております。Fluzoは予定通り、2010年4月からフィンガープリント（FP）等による権利問合せ機能を、7月からは著作権管理事業者様への利用曲目報告データ一括処理機能をそれぞれリリースするとともに、現在まで順調に稼働しています。

Fluzoの大きな特徴として、①管理楽曲の統合データベース、②フィンガープリント（FP）検索、③利用曲目報告の一括処理の三つの機能が挙げられますが、10月末時点での各機能の運用状況、処理実績は次の通りです。

①管理楽曲の統合データベース

約350万件（CDC-ID数）のデータを蓄積。内約8万件は4月以降、CP様からの権利問合せによりFPとともに新規に登録された件数。

②FP検索

4月以降48万回の検索実績。

③利用曲目報告の一括処理

○7月の処理（4～6月の利用実績報告）

約1600万行を受入、約4300の著作権管理事業者様向け報告ファイルを作成。

○10月処理（7～9月の利用実績報告）

約3000万行を受入、約6300の著作権管理事業者様向け報告ファイルを作成。

○1月処理（10～12月の利用実績報告）見込み

約5000万行の受入を予定

この間、Fluzoをご利用の事業者様も18社（トライアル利用含む）を数え、各CP様には先進のICTによる効率的な著作権処理業務を実現していただいております。また、CDCの取組みやFluzoの仕組み等については、音楽配信事業の枠を超えて、放送、映像制作あるいは電子出版といった他分野からの照会も多く、デジタルコンテンツの円滑な流通が求められる中、多方面からも大きな関心を持たれていることが窺われます。

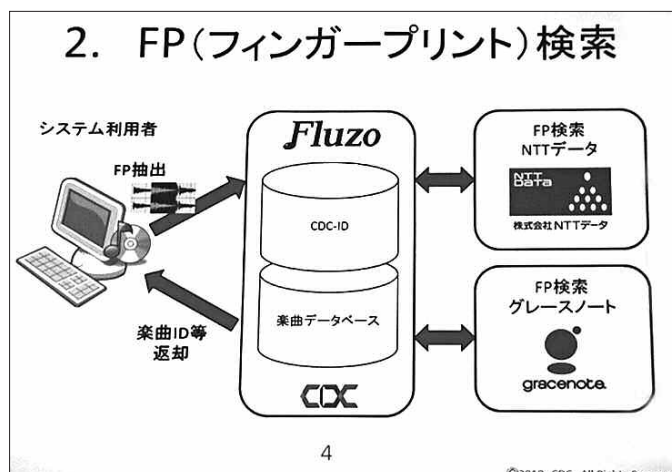
今後は、より多くの皆様にFluzoをご利用願うべく、①現在実施しているトライアル利用の事務手続きを簡素化し実際にお試しいただく機会を増やす、②現状FP検索機能と利用実績報告機能の両方のご利用を前提としているところ、これらを切り離して、FP等による統合データベースの検索のみのご利用も可能とする、といった方策を検討中です。また、システムの拡充・機能強化としては、当面次の3点を予定しています。

①報告データの著作権管理事業者への直送機能（2011/4報告時から部分的に実装予定）

②サーバー組込型FP検索モジュールの開発（2011/2完成予定）

③メドレー等複数楽曲利用コンテンツのFP検索対応（2011年度予定）

音楽配信事業の発展にとって、著作権処理に要する膨大な費用と時間の削減が喫緊の課題であるとの認識のもと、その解決策としてFluzoの利活用の促進をさらに積極的に進めていく所存ですので、AMEI会員の皆様には引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



著作権・ソフト委員会報告

ソフト規格部会／GCP-WG 活動、近況報告

ソフト規格部会 部会長／GCP-WGリーダー 宮間 伸一

当部会の近況をご報告いたします。

1. 第二回「初音ミク現象から学ぼう」勉強会開催

AMEI NEWS Vol.42 でご紹介した「初音ミク現象から学ぼう」勉強会(6/18開催)に引き続き、去る7月16日(金) PM 1:30~3:30、神保町岩波セミナールームにて、同勉強会第二回が会員参加28名のもと開催されました。

前半の部では、第一回目に回収したアンケートをご紹介し、主な質問事項にお答えした後、再度ご参加いただいた、クリプトン・フューチャー・メディア(株)代表取締役の伊藤 博之氏には、前回触れられなかった「ソフトウェアのEULA (End User License Agreement)」と、前回概要説明に止まった「PCL (Piapro Character License)」を題材にし、初音ミクのライセンス実例や契約の形態を詳しく解説していただきました。

後半の部では、自由討議として予め絞り込んだ以下のテーマについて、当部会副部会長の三沢氏(ヤマハ)より解説があり、それに基づき意見交換を行いました。

①「音素」を録音する際の実演家の権利について

・法的検討を中心に解析

②音色データを収めた音源の知財権

・電子楽器／GCP-WGの統一見解との比較

今回は、実体論が含まれた内容であり、さらに論点整理も明確にできたため、将来の課題抽出に繋がる、より有意義な勉強会となった印象でした。

尚、閉会后、伊藤社長同席の上GCP-WGを開催し、キャラクターと音楽の知的財産保護について意見交換を行いました。

2. 今期下期の活動テーマ

初音ミクに関する勉強会は二回開催をもって締めくくり、下期は、新たに次の活動テーマを掲げ、研究調査を進めて行きたいと考えています。

①サウンドフォントに関する調査研究

②企業の著作物利用とフェアユースについて

更に、GCP-WGのメインテーマである、「電子楽器内蔵コンテンツの保護」については、その不正使用への対応策として、引き続きWebsite等を監視していくことにします。



クリプトン・フューチャー・メディア(株)代表取締役 伊藤 博之氏



ソフト規格部会 三沢副会長



ソフト規格部会 宮間部会長



早稲田大学基幹理工学部講義

早稲田大学基幹理工学部講義「アジアの視点から見たコンテンツ産業の基礎理論」

音楽配信部会長 堀江 康明

今年もAMEIの活動の一環として、早稲田大学の理工学術院大久保キャンパスにおいて「アジアの視点から見たコンテンツ産業の基礎理論（創造理工学部／森康晃教授）」講義が開催され、著作権・ソフト委員会の戸叶委員長と堀江音楽配信部会長が教鞭をとっています。今回で3年目となる、AMEIと早稲田大学との提携講座です。

今年は、1年生～4年生の40名ほどの学生が受講しており、著作権法の基礎知識から、音楽を中心とするコンテンツビジネス実務の知識、業務用通信カラオケのビジネススキームやAMEIの活動をテーマとして採りあげています。音楽や映像コンテンツ産業に興味を持っている学生も多く、電子透かしやVOCALOIDの技術理論について熱心に聴講しています。

講義は10月から始まり、1月末までの毎週金曜日18時に開講されています。

12月3日には、JASRAC国際部の追川課長に「音楽著作権の集中管理と国際的ネットワーク」を講義して戴きました。

来年度も引き続き開講される予定です。AMEIホームページの著作権委員会に受講学生向けのページも設置しています。本講義はAMEI会員であれば誰でも、無料で聴講が可能ですので事務局までお問い合わせ下さい。



音楽配信部会長 堀江部会長

製品安全環境委員会報告

製品安全環境委員会活動報告

製品安全環境委員会 委員長 戸田 耕二

製品安全・環境委員会は、安全規格部会と環境問題研究部会の2つの部会でハード製品に係わる安全上の規格、環境関連規制への対応の情報共有を目的に活動しています。近年、世界各国で環境や安全に関連する法規制・規格が続々と発行・改定されています。

安全規格部会はこれまで、6月、9月、11月に計3回開催し、各国の安全規格やEMC規制、その他の製品安全に関わる規制の動向確認をおこないました。

今期の主な動向確認事項は次のとおりです。

- ・電気用品安全法の技術基準省令第1項改正および省令第2項へのJ規格の採用について
- ・AV用新安全規格IEC62368-1の導入情報
- ・マルチメディア機器用EMC規格CISPR32/35へのAMEI意見の提案
- ・中国・韓国・メキシコ・ウクライナなどの安全・EMC規制動向
- ・カナダ・オーストラリアの外部電源への省エネルギー要求事項

新安全規格のIEC62368-1については、現在適用されているIEC60065との相違点を調査し、今後、我々の製品の構造にどのように影響するかを知っておく必要があります。来期の事業計画に取り入れ、まとめていきたいと考えています。



製品安全環境委員会 田中副委員長 戸田委員長

環境問題研究部会はこれまで、4月、6月、9月、11月に計4回開催し、各国の製品の環境に関わる規制の動向確認をおこないました。今年は、EUにおけるRoHS指令の見直し改定が予定されていました。発行が遅れて来年初めになりそうですが、発行されれば、電子機器の製造業者には大きな影響があります。

環境問題研究部会では、会員の皆様のご対応の一助とすべくRoHS改定セミナーを予定していましたが、今期開催を取りやめ来期の事業計画にて取り組む予定です。EUでは他に、包括的な化学物質の管理を求めるREACH規則による規制物質が順次追加されており、製品の省エネ性能などを規制するErP指令でも、待機電力についての更なる基準強化と自動節電機能の搭載を求める第2段階の実施は2013年と近づいてきます。

米国では、ホルムアルデヒドを削減した木材の使用を求めるカリフォルニアのCARBによる規制や、レイシー法による製品で使われている木材の伐採地や樹種の届出の義務などへの対応に苦勞する規制が出て気が抜けません。

また途上国も、EUなどに追随した法規制が出てきますが、届出や表示など微妙に違うことも有り注意が必要です。

製品安全・環境委員会は、これからも会員各社のコンプライアンスを確実にしていく一助となるべく活動をしてまいります。

会員名簿

50音順 2010年9月27日現在

あ	・アイデックス音楽総研株式会社 ・アップルジャパン株式会社	・学校法人尚美学園 ・株式会社シンクパワー	ふ	・株式会社フェイス ・株式会社フェイス・ワンダワークス
い	・株式会社インターネット ・インフォコム株式会社	す	・株式会社ズーム ・株式会社鈴木楽器製作所	・株式会社フォーサイド・ドット・コム ・フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー
え	・株式会社エクシング ・株式会社エムティーアイ ・株式会社エンターブレイン	・株式会社スリック	へ	・株式会社フットレック ・ベスタクス株式会社
お	・株式会社音響総合研究所	せ	み	・ミュージックノート株式会社
か	・カシオ計算機株式会社 ・株式会社河合楽器製作所	た	や	・ヤマハ株式会社 ・財団法人ヤマハ音楽振興会 ・ヤマハミュージックトレーディング株式会社
き	・株式会社キューブ	て	・株式会社ヤマハミュージックメディア	
く	・クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 ・クリムゾンテクノロジー株式会社	・ティアック株式会社 ・株式会社ディーアンドエムホールディングス プロフェッショナル・ビジネス・カンパニー	ら	・株式会社ラグナヒルズ
こ	・株式会社コルグ	と	り	・株式会社リットーミュージック ・株式会社リムショット
さ	・株式会社サイバード ・株式会社サミーネットワークス	に	ろ	・ローランド株式会社 〈正会員会社53社〉
し	・株式会社シーミュージック ・JVCネットワークス株式会社 ・島村楽器株式会社	は	*賛助会員	・中音公司（中華人民共和国） ・株式会社博秀工芸 ・株式会社ミュージックトレード社 〈賛助会員会社3社〉
		・パイオニア株式会社 ・株式会社ハドソン ・パナソニック モバイル コミュニケーションズ 株式会社		

MIDI検定1級試験実施のお知らせ



平成22年度
MIDI検定
第2回
MIDI検定1級試験

2011・1/14(金)～1/24(月)

本試験には試験会場がありません。試験期間初日に期日指定で課題曲スコアを送付いたします。
制作指示に従い、自宅など各自任意の環境にて制作を行い提出物を完成させていただきます。

申し込み期間 2010・12/9(木)～2010・12/24(金)

MIDI検定2級2次(実技)試験実施のお知らせ

第12回
MIDI検定2級実技試験

2011・2/19(土)・2/20(日).....東京会場

2011・2/26(土)・2/27(日).....大阪会場

申し込み期間 2010・12/6(月)～2011・1/21(金)

AMEI会員の皆さま、明けましておめでとうございます。

会員の皆様のおかげを持ちまして、今年は設立15年目を迎えることになります。
この間に、音楽制作の世界はMIDIからMIDI&Audioへ、業務用通信カラオケ
事業は競合から寡占へ、音楽配信は着信メロディから着うたへと変化してまいり
ました。

私たちを取り巻く環境、構造変化のスピードは益々早まる一方ですが、その中
で15年目を迎えることが出来ますのは、一重に会員の皆様の当協会への深いご理
解と活動へのご尽力の賜物と深く感謝しています。

今年は、公益法人制度改革に対応しAMEIも一般社団法人への移行申請をする
こととなりますが、事務局は、その為の一般法人法に対応した定款の変更案の作
成や、公益目的支出計画の作成等で通常範囲を超えた業務に対応していかねばな
りません。

各委員会活動等へのサービスレベルを下げることなく制度改革に関する対応を
してまいる所存ですので、今年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

AMEI NEWS Vol.43 / 2011.1.8

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトビル4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人：岩崎修三

編集人：石黒士郎（広報委員会）

編集協力：株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>